

平成 24 年 9 月期 第 2 四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成 24 年 5 月 10 日

上場会社名 株式会社ドワンゴ 上場取引所 東
 コード番号 3715 URL <http://info.dwango.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 宏
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレート本部長 (氏名) 松本 康一郎 (TEL)03(3664)5477
 四半期報告書提出予定日 平成 24 年 5 月 11 日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 24 年 9 月期第 2 四半期の連結業績 (平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24 年 9 月期第 2 四半期	18,293	2.7	827	△27.1	717	△30.6	484	△30.1
23 年 9 月期第 2 四半期	17,813	10.7	1,135	△3.9	1,033	△11.5	694	△20.0

(注) 包括利益 24 年 9 月期第 2 四半期 598 百万円 (△13.8 %) 23 年 9 月期第 2 四半期 694 百万円 (— %)

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24 年 9 月期第 2 四半期	2,454.66	—
23 年 9 月期第 2 四半期	3,707.32	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24 年 9 月期第 2 四半期	27,539	19,393	70.3	94,881.45
23 年 9 月期	27,018	20,550	71.7	94,992.47

(参考) 自己資本 24 年 9 月期第 2 四半期 19,356 百万円 23 年 9 月期 19,383 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23 年 9 月期	—	—	—	2,000.00	2,000.00
24 年 9 月期	—	—	—	—	—
24 年 9 月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 1. 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 平成 24 年 9 月期の配当予想は未定です。

3. 平成 24 年 9 月期の連結業績予想 (平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日)

(注) 1. 当四半期における業績予想の修正の有無 : 無

2. 通期の業績予想に代えて翌四半期の業績予想を開示しております。詳細は四半期決算短信(添付資料)4 ページ

「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.5 「2. サマリー情報（その他）」に関する事項をご覧ください。）

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
新規 ― 社（社名）、除外 ― 社（社名） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積もりの変更・週精細表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計処理の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年9月期2Q	204,052株	23年9月期	204,052株
24年9月期2Q	45株	23年9月期	—株
24年9月期2Q	197,554株	23年9月期2Q	187,252株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- (1) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想には様々な不確実性が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えてください。
- (2) 配当予想金額に関して
平成24年9月期の配当予想に関しましては、通期の業績予想について開示が可能となった時点で配当予想額についても速やかに開示いたします。
なお、配当予想の開示を行う時期としましては、平成24年9月期第3四半期決算発表の時点を見込んでおります。

平成 24 年 9 月期第 3 四半期の連結業績予想（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		当 期 純 利 益		1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 3 四 半 期 (累 計)	27,420	4.3%	320	△83.5	250	△86.3	60	△95.2	282.91

(注)1. 当社は 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」に記載のとおり、翌四半期の業績予想を開示しております。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	5
4. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 継続企業の前提に関する注記	14
(5) セグメント情報等	14
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	15
(7) 重要な後発事象	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成23年10月1日～平成24年3月31日)における我が国経済は、欧州の債務問題が一旦落ち着いたことに加え、日銀の追加緩和より円高修正の動きも見られました。しかしながら、新興国経済に一部減速感が出るなど、世界景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

当社グループ(当社、連結子会社及び持分法適用会社)を取り巻く環境は、新型タブレット端末が発売されるなど、スマートフォンだけではなく、高機能携帯端末の普及も拡大しております。それにともない、スマートフォンやタブレット端末からのサービスサイトへのアクセスが急増している他、新たなサービスやアプリも次々と登場しており、スマートフォン関連の市場は拡大しております。

さらに、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)、動画配信サービス、電子書籍などもこれまで以上に利用しやすくなっております。

今後も、様々な通信デバイスから利用できる新たなコンテンツが登場してくると予測しております。

この様な環境の中、当社グループにおきましては、ネットワークを通じた新しいコミュニケーション手段を提供すべく、ネットワークエンタテインメントサービス・コンテンツを携帯電話、スマートフォン、PC、家庭用ゲームソフト市場などで事業展開してまいりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

モバイル事業においては、Androidスマートフォン向けに、高音質楽曲配信サービス「dwango.jp」をdocomo、KDDI、SoftBankの国内主要3キャリアに展開しました。また、着うた[®]、着ボイス[®]の配信サービスやアニメ総合サービス「アニメロミックス」、K-POPや韓国ドラマなど韓国をメインとしたアジア系音楽配信サイト「K-POP Life」を開始するなど、サービスを拡大しました。

従来の携帯電話端末向けには、主力となる音楽系サイトの着うた[®]や着うたフル[®]を中心に、人気アーティストの楽曲配信権利獲得や当社グループの強みを活かしたニコニコ動画系オリジナルコンテンツなどを拡充し、ユーザ満足度向上に努めました。

*なお、有料ユニークユーザ数及びARPUは算出方法の変更にともない、従来との妥当な比較ができないため、記載を省略しております。

費用面においては、著作権等使用料が想定を下回り、広告宣伝費の一部を翌四半期に先送りしました。

以上の結果、モバイル事業の売上高は73億4百万円(前年同期比16.5%減)、セグメント利益(営業利益)は12億58百万円(前年同期比27.8%減)となりました。

ゲーム事業においては、従来の据置型や携帯型ゲーム機を中心とした国内家庭用ゲーム市場は、厳しい状況が続いています。一方、スマートフォンや携帯電話端末のプラットフォームを利用したソーシャルモバイルゲームは高成長を持続しております。

その中で、携帯型ゲーム機、据置型ゲーム機向けに、平成23年12月に「真かまいたちの夜 11人目の訪問者」、「忍道2」を、平成24年2月に「善人シボウデス」を発売しました。海外タイトルの国内展開では平成23年10月に「DEAD ISLAND」、平成24年2月に「Dragon Age II」を発売しました。スマートフォンや携帯電話端末向けには、「風来のシレンみんなで不思議のダンジョン」を他社プラットフォームに提供しました。また、受託タイトルのロイヤリティ収入がありました。

以上の結果、ゲーム事業の売上高は34億29百万円(前年同期比15.1%減)、セグメント利益(営業利益)は4億33百万円(前年同期は25百万円の損失)となりました。

ポータル事業においては、新バージョン「ニコニコ動画:Zero」「ニコニコ生放送:Zero」のサービス開始に向けて随時、新機能や新サービスを投入してきました。

ニコニコ生放送においては、プロ野球生中継が東北楽天ゴールデンイーグルスに続き、福岡ソフトバンクホークス、横浜DeNAベイスターズで本格スタートした他、ディズニー提供作品や東映、松竹、香港映画の配信を開始するなどコンテンツの増強に努めました。「ニコニコ静画」では、角川グループの電子書籍プラットフォーム「BOOK☆WALKER」との連携やマンガコンテンツを拡充しました。

また、スマートフォンへの対応としては、2月からdocomo、Softbankでニコニコポイントの決済が可能となり、KDDIを含め国内主要キャリアのスマートフォンでニコニコポイントが購入できるようになりました。

これらの取り組みにより、平成24年3月末には登録会員数2,648万人、様々な特典が受けられる「ニコニコプレミアム会員」は159万人、「ニコニコ動画モバイル」の会員数は737万人となりました。

収益面におきましては、「ニコニコプレミアム会員」が順調に増加しており売上に貢献している他、広告収入やアフィリエイト収入、ポイント収入なども堅調に伸びております。

費用面につきましては、「ニコニコ生放送」の番組制作費用や集客・収入に繋がる新サービスへの投資などを継続しております。

以上の結果、ポータル事業の売上高は65億95百万円（前年同期比45.2%増）、セグメント利益（営業利益）は6億25百万円（前年同期は9百万円のセグメント利益）となりました。

ライブ事業においては、「源氏物語」、「カンタレラ2012～裏切りの毒薬～」などのニコニコミュージカルを開催した他、ライブハウス「ニコファーレ」では、ニコニコ動画系のイベントやコンサートだけでなく、ゲーム系イベントや討論、ファッションショー、映画試写会など様々なイベントを開催しました。また、各種イベント向けにホールの貸出なども行いました。

以上の結果、ライブ事業の売上高は1億72百万円、セグメント損失（営業損失）は3億1百万円となりました。

その他の事業においては、主にアニメ分野やニコニコ動画から生まれたコンテンツのCDやDVDなどの音楽出版及び著作権利用料収入が売上に貢献しました。

以上の結果、その他の事業の売上高は14億15百万円、セグメント損失（営業損失）は1億95百万円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間業績は、売上高182億93百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益8億27百万円（前年同期比27.1%減）、経常利益7億17百万円（前年同期比30.6%減）、四半期純利益は4億84百万円（前年同期比30.1%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産の部の合計は275億39百万円（前期末は270億18百万円）と、前連結会計年度末に比べ5億20百万円増加いたしました。当第2四半期連結会計期間の主な増減内容は次のとおりであります。

流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ7億8百万円減少し、152億27百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少によるものです。

固定資産につきましては、有形固定資産が4億17百万円、無形固定資産が7億43百万円、投資その他の資産が68百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ12億29百万円増加し、123億11百万円となりました。これは主に無形固定資産に含まれるのれん及び無形固定資産のその他に含まれるソフトウェアの増加によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債の部の合計は81億45百万円（前期末は64億67百万円）と、前連結会計年度末に比べ16億77百万円増加いたしました。これは主に短期借入金の増加によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産の部の合計は193億93百万円（前期末は205億50百万円）と、前連結会計年度末に比べ11億56百万円減少いたしました。これは主に株式会社CELLの完全子会社化に伴う少数株主持分の減少によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動において増加したものの、投資活動及び財務活動により減少したことにより10億49百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は16億36百万円（前年同期は15億63百万円の収入）となりました。これは主に売上債権の増加で5億96百万円、その他資産の増加で3億42百万円の支出要因となったものの、税金等調整前四半期純利益で7億91百万円、減価償却費で7億78百万円、未払金の増加で5億45百万円が収入要因となったためであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は18億51百万円（前年同期は16億65百万円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得により8億93百万円、無形固定資産の取得により5億92百万円を支出したこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は8億35百万円（前年同期は3億80百万円の支出）となりました。これは短期借入金の借入による収入が13億30百万円あったものの、自己株式の取得により13億90百万円、配当金の支払により4億1百万円を支出したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年9月期の連結業績見通しにつきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化が激しく、主力事業であるモバイル事業においては、スマートフォンの普及によるユーザーニーズや利用状況の変化など、業績見通しを立てる上で重要な指標の条件設定が困難であり、また、主力事業となりつつあるポータル事業において、今後の動画関連サイト市場規模予測に加え、ユーザー数の急速な伸びによる収益、それに伴う様々な費用の発生など、不確実性により短期的に大きく収益及び費用が変動する傾向にあり、通期での業績予想について信頼性の高い数値を算出することが困難であります。

従いまして、四半期毎の業績発表時に次四半期の業績見通しを公表させていただきます。

平成24年9月期第3四半期連結会計期間業績見通し（平成24年4月～6月）

売上高	9,127百万円
営業損失	507百万円
経常損失	467百万円
四半期純損失	424百万円

なお、下記の「平成24年9月期第3四半期連結累計期間業績見通し」は平成24年9月期第2四半期連結累計期間の実績値に第3四半期連結会計期間の業績見通しを加算したものとなっております。

売上高	27,420百万円
営業利益	320百万円
経常利益	250百万円
四半期純利益	60百万円

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

(法人税率の変更等による影響)

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から、平成24年10月1日に開始する連結会計年度から平成26年10月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年10月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%となります。この税率変更により、繰延税金負債の金額は6,963千円減少し、法人税等調整額は6,963千円減少しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

(参考情報)

当第2四半期連結業績

〔売上構成〕

(金額：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (売上比)	当第2四半期 連結累計期間 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	主な変動要因
売上高	17,813	18,293	34,298	
モバイル事業	8,744 (49.1%)	7,304 (39.9%)	16,782 (48.9%)	月額会員制サイトの会員数の減少によります。
ゲーム事業	4,037 (22.7%)	3,429 (18.7%)	5,864 (17.1%)	
ポータル事業	4,543 (25.5%)	6,595 (36.1%)	10,081 (29.4%)	ニコニコ動画のプレミアム会員数の増加によります。
ライブ事業	— (—%)	172 (0.9%)	238 (0.7%)	
その他事業	790 (4.4%)	1,415 (7.7%)	2,237 (6.5%)	
消去又は全社	△302 (△1.7%)	△623 (△3.4%)	△905 (△2.6%)	

〔売上原価主要科目〕

(金額：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (売上比)	当第2四半期 連結累計期間 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	主な変動要因
売上原価	10,640 (59.7%)	11,060 (60.5%)	20,560 (59.9%)	
人件費	2,106 (11.8%)	2,802 (15.3%)	4,688 (13.7%)	開発人員の増加及び連結子会社の増加に伴う人員の増加によります。
支払手数料	798 (4.5%)	839 (4.6%)	1,586 (4.6%)	
著作権等使用料	2,637 (14.8%)	2,357 (12.9%)	5,135 (15.0%)	着うた®・着うたフル®のダウンロードの減少によります。
外注費	3,321 (18.6%)	2,798 (15.3%)	5,621 (16.4%)	ゲーム開発費の減少によります。
通信費	1,007 (5.7%)	1,240 (6.8%)	2,109 (6.2%)	ニコニコ動画回線費用の増加によります。
その他	1,241 (7.0%)	1,636 (8.9%)	2,859 (8.3%)	固定資産の増加に伴う減価償却費の増加によります。
たな卸資産の増減	350 (2.0%)	308 (1.7%)	244 (0.7%)	
(他勘定振替)	△823 (△4.6%)	△921 (△5.0%)	△1,684 (△4.9%)	

〔販売費及び一般管理費主要科目〕

(金額：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 (売上比)	当第2四半期 連結累計期間 (売上比)	前連結会計年度 (売上比)	主な変動要因
販売費及び 一般管理費	6,038 (33.9%)	6,405 (35.0%)	12,067 (35.2%)	
広告宣伝費	2,625 (14.7%)	2,204 (12.1%)	4,599 (13.4%)	
人件費	864 (4.9%)	1,244 (6.8%)	2,084 (6.1%)	連結子会社の増加に伴う人員数の増加によりま す。
支払手数料	1,677 (9.4%)	1,787 (9.8%)	3,440 (10.0%)	
研究開発費	214 (1.2%)	194 (1.1%)	354 (1.0%)	
その他	657 (3.7%)	973 (5.3%)	1,587 (4.6%)	

※当第2四半期連結会計期間末における従業員数(連結)は、1,065名となり、第1四半期連結会計期間末より84名、前連結会計年度末より88名増加しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,789,711	5,639,946
受取手形及び売掛金	6,420,601	7,016,922
有価証券	508,079	508,248
商品及び製品	163,673	180,560
仕掛品	762,700	434,694
原材料及び貯蔵品	14,937	30,039
その他	1,280,259	1,420,242
貸倒引当金	△4,020	△3,627
流動資産合計	15,935,944	15,227,026
固定資産		
有形固定資産	2,695,090	3,112,364
無形固定資産		
のれん	799,076	1,201,968
その他	1,539,185	1,879,948
無形固定資産合計	2,338,262	3,081,917
投資その他の資産		
投資有価証券	4,899,258	5,013,560
その他	1,153,138	1,229,761
貸倒引当金	△3,228	△125,624
投資その他の資産合計	6,049,169	6,117,697
固定資産合計	11,082,523	12,311,979
資産合計	27,018,467	27,539,006
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,984,366	2,051,809
短期借入金	316,416	1,336,416
未払法人税等	330,903	240,492
賞与引当金	490,266	487,158
ポイント引当金	40,795	70,256
資産除去債務	48,098	—
その他	2,693,951	3,396,124
流動負債合計	5,904,797	7,582,257
固定負債		
長期借入金	149,770	89,062
資産除去債務	248,225	319,935
その他	165,035	153,851
固定負債合計	563,030	562,849
負債合計	6,467,828	8,145,106

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,616,302	10,616,302
資本剰余金	10,022,921	9,497,145
利益剰余金	△1,387,378	△902,449
自己株式	—	△5,636
株主資本合計	19,251,845	19,205,361
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	133,106	151,762
為替換算調整勘定	△1,548	△643
その他の包括利益累計額合計	131,557	151,119
少数株主持分	1,167,235	37,418
純資産合計	20,550,638	19,393,899
負債純資産合計	27,018,467	27,539,006

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
売上高	17,813,959	18,293,668
売上原価	10,640,262	11,060,841
売上総利益	7,173,696	7,232,826
販売費及び一般管理費	6,038,279	6,405,252
営業利益	1,135,416	827,573
営業外収益		
受取利息	4,367	3,371
受取配当金	910	900
為替差益	2,784	10,893
持分法による投資利益	—	13,229
その他	6,065	8,321
営業外収益合計	14,128	36,715
営業外費用		
支払利息	12,645	4,726
貸倒引当金繰入額	—	125,167
持分法による投資損失	21,893	—
投資事業組合運用損	6,747	8,353
寄付金	72,900	—
その他	1,971	8,994
営業外費用合計	116,157	147,242
経常利益	1,033,386	717,046
特別利益		
投資有価証券売却益	162,931	—
関係会社株式売却益	—	2,100
段階取得に係る差益	30,000	—
負ののれん発生益	—	132,142
その他	1,837	—
特別利益合計	194,769	134,242
特別損失		
固定資産除却損	11,230	5,001
減損損失	40,573	—
投資有価証券評価損	12,426	36,045
事務所移転費用	—	19,121
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	87,810	—
その他	—	118
特別損失合計	152,040	60,286
税金等調整前四半期純利益	1,076,115	791,003
法人税、住民税及び事業税	394,901	163,722
法人税等還付税額	△20,783	—
法人税等調整額	△323	48,269
法人税等合計	373,793	211,992
少数株主損益調整前四半期純利益	702,322	579,011
少数株主利益	8,119	94,082
四半期純利益	694,202	484,928

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	702,322	579,011
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,805	18,656
為替換算調整勘定	223	916
その他の包括利益合計	△7,581	19,572
四半期包括利益	694,740	598,584
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	686,578	504,490
少数株主に係る四半期包括利益	8,162	94,093

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,076,115	791,003
減価償却費	376,387	778,087
減損損失	40,573	—
段階取得に係る差損益(△は益)	△30,000	—
のれん償却額	—	91,415
固定資産除却損	11,230	5,001
投資有価証券評価損益(△は益)	12,426	36,045
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△416	122,002
賞与引当金の増減額(△は減少)	△26,490	△3,107
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△2,388	—
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)	△37,789	—
ポイント引当金の増減額(△は減少)	15,832	29,461
受取利息及び受取配当金	△5,277	△4,271
支払利息	12,645	4,726
持分法による投資損益(△は益)	21,893	△13,229
投資有価証券売却損益(△は益)	△162,931	—
関係会社株式売却損益(△は益)	—	△2,100
負ののれん発生益	—	△132,142
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	87,810	—
投資事業組合運用損益(△は益)	6,747	8,353
売上債権の増減額(△は増加)	△332,922	△596,320
たな卸資産の増減額(△は増加)	333,262	296,017
その他の資産の増減額(△は増加)	495,209	△342,086
仕入債務の増減額(△は減少)	△42,132	67,442
未払金の増減額(△は減少)	△228,821	545,925
前受金の増減額(△は減少)	△169,196	117,772
その他の負債の増減額(△は減少)	229,524	197,301
その他	31,699	△24,654
小計	1,712,993	1,972,642
利息及び配当金の受取額	5,267	4,271
利息の支払額	△9,821	△4,740
法人税等の還付額	20,783	—
法人税等の支払額	△165,445	△336,027
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,563,778	1,636,146

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年10月1日 至 平成23年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△200,000	—
定期預金の払戻による収入	200,000	100,000
預け金の増減額 (△は増加)	△2,654	—
有形固定資産の取得による支出	△637,046	△893,422
無形固定資産の取得による支出	△369,971	△592,828
投資有価証券の取得による支出	△87,500	△149,900
投資有価証券の売却による収入	193,425	—
子会社株式の取得による支出	△5,000	△318,394
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△591,485	—
関係会社株式の売却による収入	—	17,100
貸付けによる支出	△167,500	△11,130
貸付金の回収による収入	2,500	2,889
その他	—	△6,260
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,665,231	△1,851,946
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,682,000	1,330,000
短期借入金の返済による支出	△1,684,000	△280,000
長期借入金の返済による支出	—	△90,708
リース債務の返済による支出	—	△1,981
自己株式の取得による支出	—	△1,390,989
配当金の支払額	△371,827	△401,844
少数株主への配当金の支払額	△6,708	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△380,536	△835,522
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,047	1,726
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△478,941	△1,049,596
現金及び現金同等物の期首残高	7,360,394	6,997,631
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,881,452	5,948,035

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	モバイル 事業	ゲーム 事業	ポータル 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	8,743,694	4,032,923	4,539,549	17,316,166	497,791	17,813,959	—	17,813,959
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,170	5,063	3,695	9,929	292,436	302,366	△302,366	—
計	8,744,865	4,037,986	4,543,244	17,326,095	790,228	18,116,325	△302,366	17,813,959
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	1,743,230	△25,432	9,270	1,727,068	△184,166	1,542,902	△407,486	1,135,416

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ライブ事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△407,486千円は、セグメント間取引消去△3,638千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△403,848千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結会計期間において「ゲーム事業」セグメントが有する事業用資産について重要な減損損失を認識いたしました。当該減損損失の計上額は当第2四半期連結累計期間において40,573千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「ポータル事業」セグメント及び「その他」に含まれる一部事業セグメントにおいて、株式会社CELLの株式取得時における取得原価が取得した資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その超過額をのれんとして認識しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結会計期間においては887,819千円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	モバイル 事業	ゲーム 事業	ポータル 事業	ライブ 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	7,303,938	3,409,647	6,411,216	166,880	17,291,683	1,001,985	18,293,668	—	18,293,668
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	277	19,794	184,257	5,672	210,001	413,465	623,467	△623,467	—
計	7,304,215	3,429,442	6,595,473	172,553	17,501,685	1,415,450	18,917,135	△623,467	18,293,668
セグメント利益又 はセグメント損失 (△)	1,258,219	433,112	625,154	△301,075	2,015,411	△195,629	1,819,782	△992,208	827,573

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ出資等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△992,208千円は、セグメント間取引消去96,420千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,088,628千円であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

平成24年3月31日付で株式会社CELLを株式交換により完全子会社化しました。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては491,678千円であります。なお、当該のれんは特定の報告セグメントに帰属していません。

(重要な負ののれん発生益)

「ゲーム事業」セグメントにおいて、株式会社ゲームズアリーナの株式追加取得時における取得原価が減少する少数株主持分の金額を下回ったため、その超過額を負ののれん発生益として認識しております。

なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては131,473千円であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、第2四半期連結累計期間において、取締役会決議に基づき、自己株式を10,607株、1,390,989千円を取得しております。

また、当社は、平成23年3月31日付で、当社を完全親会社、株式会社CELLを完全子会社とする株式交換を行い、当社が保有する自己株式のうち10,564株を交付し、資本剰余金が117,672千円減少しております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が9,497,145千円、自己株式が5,636千円となっております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。